

IAAA NEWS

IWATE ADVERTISING AGENCIES ASSOCIATION NEWS

発行 岩手県広告業協会

〔事務局〕〒020-0878

盛岡市肴町4-20 永卯ビル4F(株式会社東広社 内)

TEL.019-623-5411

編集 広報PR委員会

理事長あいさつ



岩手県
広告業協
会会長
岩手
の広告業
界発展の
ため、ま
た岩手の

東広社
取締役
藤原 博氏

経済活動活性化の一助となるため様々な活動を進めております。会員社特別賛助会員社賛助会員社の皆様には、本協会の事業活動に対して格別のご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

岩手県においては、東日本大震災津波から10年が経過し、インフラや交通網の整備などによる着実な復興・復興を実感するとともに、一方で震災記憶の風化も顕著となり、広告活動を通じて次世代への継承も当協会の永続的な役割の一つであると考えます。

長引く新型コロナウイルスの猛威は岩手にも、広告業界にもまだまだ大きな影響を及ぼし、先行き不安な状況が続いています。今後はWithコロナを見据えたコミュニケーションとプロモーションが我々広告業界の存在意義になってくると考えます。

また、テレワークやリモートワークの推奨と常態化。移住・定住やワーケーションの導入など、働き方やライフスタイルにも大きな変化が生まれてきております。社会活動においてはSDGへの取り組みや、デジタルトランスフォーメーションへの順応など、時代の変化に即したスピード感を持った対応が求められる時代になっております。

私ども岩手県広告業協会は、どんな時代でも「広告」は世の中を明るくし、人々の生活を豊かにする。」という信念のもと、広告の力を信じ、皆様と共に取り組んで参ります。より一層のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

就任あいさつ



岩手県
広告業協
会会長
岩手
の広告業
界発展の
ため、ま
た岩手の

東広社
取締役
藤原 博氏

日を懐かしく思う、今日この頃です。テレビ岩手時代は、制作部門二筋の人生を送っていました。皆様が大好きなゴルフの生中継、松岡修造とアガシの試合といったスポーツ系から構成モノまでありとあらゆる番組を担当しました。

特に「夢見るピノキオ」に関しては、20年経った今でも放送されており、これもひとえに広告業に携わる皆様のおかげだと思っております。お礼申し上げます。

実はわたくし、ラジオの世界も好きなんです。ウデアレンの映画「ラジオデイズ」のような生活ではありませんが、小学生の頃、親に分られないようにイヤホンでこっそり深夜番組を聞いていたラジオっ子でして、ラジオから流れる洒落た音楽や軽妙なトークに早熟期の煩わしさをうつつておりました。

そんなわけでテレビからラジオの世界と環境は変わりましたが、違和感ない毎日を送っています。

今はコロナ禍という状況の中で、これまでとは違う不自由な生活を強いられている事と思います。(この会報が出る頃は少し落ち着いているのでしょうか?)

こんな時だからこそ、エフエム岩手はさまざまな情報、音楽そしてパーソナリティーのトークをお届けしリスナーの皆様と触れ合いたいと考えています。ところで、私の名前「野田喜代志」に喜代志と漢文のレ点を入れますと、「喜んで志を代える」と恐ろしく適当な男になってしまいます。

そんなことはありません。これまで仕事には真摯に向き合ってきたつもりです(笑)

ジブリの映画「紅の豚」でポルコが言っています。「飛ばねえ豚はただの豚だ」と。

私、飛びます。そしてポルコのようにカッコいい男になりたいと願っています。こんな私ですが、どうぞよろしくお願致します。



岩手県
広告業協
会会長
岩手
の広告業
界発展の
ため、ま
た岩手の

東広社
取締役
藤原 博氏

6月に、岩手日報広告社の代表取締役社長に就任しました。岩手日報社時代のそのほとんどを広告局、事業局、そして県内支局の営業担当ということで岩手県広告業協会の皆さんには大変お世話になって参りました。岩手日報社時代最後の数年間は、総務・経営管理部門にいたしたので岩手日報広告社に移り、古巣に帰ってきたような、懐かしい思いでいます。

久しぶりの広告業界で、社員にも恵まれ毎日楽しく仕事をさせて頂いています。週末には岩手町に帰ってシバウラの赤いトラクターに乗り田畑を縦横無尽に駆け回っています。2反の田んぼにはあきたこまちを植えていますが、間違ひなく買って食べたほうが安くなります。しかし、先見の明がある小生は、将来くるであろう日本国の食糧難時代を見越して稲作技術を磨いている次第です。畑の7棟のビニールハウスでは、ピーマン800本はじめトマト、ホウレンソウ、春菊を。露地栽培では岩手日報社の二部の社員に人気のハニーバンタム、春みどり等々の野菜を「農協」に出荷しています。店頭で、JA新いわて「西館チャ」の生産者スタンプが押してある野菜を見かけたらお引き立てくださいようにお願いします。

岩手日報社時代から、親しくさせて頂いている方も多数います。これからも盃を交わしあいながら、また、最近やつと好きになってきた下手なゴルフを楽しみながら皆さんと頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いたします。



岩手県
広告業協
会会長
岩手
の広告業
界発展の
ため、ま
た岩手の

東広社
取締役
藤原 博氏

6月に前任の馬場の後を受け就任しました。コロナ禍で皆さまに満足なあいさつもできずに無礼いたし、菌がゆい思いをしておりました。広告業界の経験が浅くまだ戸惑う場面ばかりですが「素人」ならではの視点が皆さまのお役に立てることもあるはずと信じ、主力である新聞折り込みチラシを通じて本県の経済活性化に貢献できるよう、弊社のかじ取りをしていく決意を新たにしております。ご指導よろしくお願い致します。

3月までは岩手日報社編集局報道部に在籍しました。記者として歩んだ二十余年は、北上支局(北上市、西和賀町)や岩手支局(葛巻町)での地域密着の取材や、紙面構想作りや取材態勢構築など全体統括を務めた2016年岩手国体が印象深いですが、やはり最大の出来事は2011年の東日本大震災です。「被災者に寄り添って復興の道しるべとなる報道」「同じことが再び発生したときに犠牲者を出さないための報道」の在り方を仲間と模索し続けたこの10年でした。

2001年は新婚旅行で米ニューヨーク市滞在中に同時多発テロに遭遇しており、不吉な「10年サイクル」を回避するためにおとなしく過すよう心掛けてきた2021年もゴールが迫ってきました。新型コロナウイルスとの向き合い方がようやく見定まってきたので、来年こそは良い年になることと確信しています。

滝沢市出身の46歳。高校では甲子園を目指し、学生時代はアメフトで鍛えられました。今年ゴルフを始めましたが壁にぶち当たっており「思い返せば野球でも打つのが苦手だった」と落胆する日々。こちらの方も、ご指導いただければありがたいです。

事業報告

初のオンラインセミナー開催

企画委員会 委員長 中村 淳

岩手県広告業協会企画委員会では、例年、会員社社員のスキルアップを目的に研修セミナーを開催しております。2020年度は、コロナ禍の現状を鑑み、岩手県広告業協会としては初めてとなるオンラインセミナーとして開催しました。

デジタル化、コロナ禍による社会や生活の構造変革など、環境が大きな変化の中、5Gを題材に、「通信」の仕組みの深化に伴う仕事・生活環境の変革をテーマに、株式会社電通ソリューション開発センター情報通信業界コンサルタント吉田健太郎様の講演「コロナで加速する、5G時代の生活変化」をZoomを利用して開催しました。

参加者は、岩手県広告業協会会員49名／特別賛助会員35名／賛助会員3名の計87名にご参加いただきました。



第52回岩手広告賞表彰式

7月27日盛岡グランドホテルにて第52回岩手広告賞の表彰式が行われました。

岩手県広告業協会においても、昨年度内マスメディアと協同で行ったプロモーションが新聞・テレビ・ラジオ広告の部でそれぞれ入賞し、表彰式に参加致しました。

同プロモーションは、新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛、接触機会低減など日常生活に我慢を強いられている岩手県民に向けて、2020年7月10日～8月31日までの期間中実施致しました。

第52回 岩手広告賞・岩手広告美術展表彰式



「メディア」のルーキー

「変わる2人、変わらぬ2人」

岩手日報社 広告事業局 広告部次長 小田野 純一

「2015年の低迷から翌年は打棒発揮。大谷の不振は記録的な活躍の前触れになる。」昨年11月の大谷翔平選手への単独インタビュー記事で最後の文章をこのように締めた。半分は彼の雪辱と過去の記録からの予測、もう半分は期待というよりも「翔平なら壁を乗り越えろ」という願望だった。2021年、背番号17の活躍は、「記録的」では語れない、伝説の一年となった。

今春から広告事業局広告部に配属になったが、それまでは主に県内支局や運動部で記者を務めた。乏しい実力からかけ離れた運と縁で、2018年から特派員として現地で米大リーグ取材を続けた。SNSでの「そっちで取材します」とこっそり挨拶から2日後の初観戦、ヤンキース戦の第1打席でいきなり右翼席へぶっ飛ばした。1週間後、練習取材でダッグアウトにノートを忘れ、そのまま試合開始。青ざめたまま、終了後の会見で「岩手日報さん忘れ物です。出禁です」とにっこり大谷。本塁打からのいじり、良くも悪くもタジタジにされた。クラブハウスで謝りながら、海を渡っても変わらない接し方や人柄がうれしくもあった。

花巻東高の恩師佐々木洋監督は菊池雄星と大谷をゴジラとメカゴジラでよく例える。雄星はどんなフォームでも150キロ超の直球を投げられるゴジラ、大谷は素早くアップデイトして対応するメカゴジラ。

ゴジラ雄星は本気でフォーム改造に取り組み、今季前半は進化した姿を見せた。取材も雑談も本心に楽しく、必ずクスクスと笑わせるネタを盛り込んでくる。愛される人柄を表す行動を一つ紹介。握手をするときは必ず大事な左手も添えて両手で握手する。縁を大切にしている彼らしさを感じた。

営業マンとして私も新たな縁をいただいた。一つ一つの仕事に感謝しながら、2人の活躍を

多くの方に伝えていきたい。



囲み取材で大谷翔平選手にインタビューする小田野純一さん(中央)

新たな道へ

岩手めんこいテレビ 営業局営業部 小原 大樹

今年5月に岩手めんこいテレビに中途入社致しました小原大樹と申します。

私は昨年までプロ野球選手を目指し、18年間の競技生活を全うしておりました。

大学卒業後は日本製紙株式会社に就職し、昨年12月に自己退社から単身MLBに挑戦し、その後は四国にある独立リーグに所属し10月のドラフト会議にてプロ野球選手という夢にピリオドを打ちました。

この経験からは本当に野球しかしてこなかったのだと思われて当然であり、事実その言葉が本意であります。その野球しかしていなかった競技人生でも多くの学びがありました。

その中でこれから始まるメディア人として活かしていきたい1つの経験があります。

それは、実践知こそが本当の自身の価値であるということです。私はプロ野球を経由せずにMLB挑戦という一般的に見れば無謀な挑戦をしました。実際にはコロナウイルス流行と重な

り、トライアウトも中断となり無念の帰国となりました。しかし、契約までは辿りつけなかったものの某球団のテストでは30名近くの世界各国から集まった選手の中でトップの評価をいただくことができました。退路を断ち覚悟を決めることができたことで、リスクを取ってでも挑戦することのすばらしさを学びました。

既存の先入観に捉われず、まずその場に足を踏み入れそこで得た自身の経験を未来の自身に還元することはこれから続く第二の人生でも必ず力になると信じております。

これから始まるキャリアにおいてもリスクを省みず多くのことに挑戦し、新しい価値観をメディアの仕事を通じて発信できるよう精進して参ります。

そのためには様々な知識や経験を積み重ねていかなければなりません。先輩である皆様からご指導頂けるよう、まずは岩手めんこいテレビ・小原の顔と名前を覚えて頂くところから始めたいと思います。

どうぞよろしく願いたします。



7月に行われたMLBオールスターゲームにてFNN現地リポーターとして派遣された小原大樹さん(会場:Coors Field)

プロフィール

・1994年9月9日生まれ、滝沢市出身。
・花巻東高校・慶応義塾大学・MLB挑戦・四国独立リーグを経て2021年5月岩手めんこいテレビ入社。